

北海道農業の代名詞を目指して ～長沼町の発信～

木村 将人さん (きむら まさと)
 ながぬま農業協同組合 青年部 部長
 鈴木 大晴さん (すずき たいせい)
 ながぬま農業協同組合 青年部 事務局

農山漁村における地域の活性化や、個性的で魅力ある地域づくりの優れた活動を紹介するシリーズ。

今回は「わが村は美しくー北海道」運動第6回コンクールで奨励賞を受賞した「ながぬま農業協同組合青年部」の木村部長、鈴木事務局にお話を伺いました。



木村部長

《イベントが目白押し》

長沼町は、空知地方の最南端に位置し、新千歳空港から29km、札幌中心街からは32kmにあり、畑作風景や田んぼが広がり、牧場や丘の上にあるカフェ、キャンプ場や温泉など北海道を満喫できるまちとなっています。

現在、ながぬま農業協同組合青年部の盟友（同志）は66名で、平均年齢30代前半の若さあふれるメンバーで構成された団体です。

長沼町はイベントも多く、一本橋を向かい風の中突き進む名物競技「やませ」で盛り上がる「マオイ夢まつり」、夕やけが落ちる通りに縁日が出現する「夕やけ市」、実りの秋の「収穫祭」など、ながぬま農協、長沼町、商工会等が一丸となってお祭りを盛り上げ、毎年どれも大盛況です。



チカホでのブロッコリー直売会の様子



豆腐直売の様子（ながぬま農業協同組合青年部のメンバー）

《自慢の「誉れとうふ」と食農教育》

地域貢献のために取り組んできたのが、オリジナルの豆腐販売と食農教育です。

長沼町は大豆の作付面積・出荷量ともに日本一となったこともあり、長沼産の大豆をもっと知ってもらおうと長沼産「ユキホマレ」のみを原材料としたよせ豆腐「誉れとうふ」を作り販売しています。味には定評があり、1つのイベントで200丁以上も売れるほど大人気商品となっています。

また、大豆を通して食農教育も行っています。小学校の授業の一環として、農家の農機具の見学などを交え、大豆のは種→収穫→選別→豆腐作りまでを春から秋にかけて指導しています。



食育授業の様子

《都市近郊型農業をPR》

長沼町は、新千歳空港からも近いので、朝採れた作物を空輸でお昼に道外へ出荷することも可能です。

長沼町観光協会が謳う「^{うた}となりのながぬま」のとおり、すぐそばに北海道の農業を感じられるをコンセプトとして、「北海道の農業といえば長沼町」と言われたいと、農業体験をしているような迫力満点の動画や活気あふれるイベントの様子などSNSを使って世の中に配信しPR活動をしています。

JAながぬま青年部のInstagramはこちら



@JA_NAGANUMA_SEINENBU

※当協会ホームページ、「わが村は美しくー北海道」運動第1～9回受賞団体の活動概要をまとめた冊子「生産空間の活性化に資する地域事例集」をご覧ください。

